

万年筆工房の古民家を改装したカフェでまちに新たな交流を

モリソン万年筆&カフェ 奈良県御所市

■万年筆をテーマにしたカフェ&バーを経営

かつて関西を中心に販売され、モダンなデザインと独自の書き味が人気を博した「モリソン万年筆」。ボールペンの台頭や流通構造の変化により1970年に製造販売を終了した後も、根強いファンからは再販を望む声が絶えない。

そのモリソン万年筆を製造していた工房跡の古民家を改装した「モリソン万年筆&カフェ」が人気を集めている。希少な万年筆を鑑賞しながら喫茶や料理、お酒を楽しめる場所として、まちに新たな賑わいをもたらしている。

■オープンのきっかけは霜月祭への出店

店主の谷川^{たけひこ}岳彦氏がカフェを始めたのは、2015年の「御所^{そうげつさい}まち霜月祭」への出店がきっかけ。

霜月祭は御所まち振興のために毎年11月第2日曜日に開かれるイベントで、古民家に住むまちの有志が自宅の一部を開放して来訪者をもてなし、市内外の人々が交流する機会となっている。

谷川氏も地域活性のためにと、自宅である古民家の一部を開放。コーヒーと奥さん手作りのシフォンケーキのセットを100食用意したところ、祭りの終了を待たずに完売。家業の文具卸売業を営む傍ら、カフェやバー巡りを趣味としていた谷川氏は、「また来たい」「祭りの期間中以外も開いてほしいのに」というお客さんの声に後押しされ、カフェのオープンを決意したという。

■クラウドファンディングで資金調達

開業資金の調達にあたっては、クラウドファンディングを利用。出資額に応じ細かくコースを設定し、オープン後に使える飲み物チケットやオリジナルの文具を謝礼品として提供した。

特に蔵出しのモリソン万年筆が貰えるコースは、この機会を逃せば二度と入手できないとあって人気集中。最終的に180名から支援が得られ、当

初目標金額の50万円を大幅に上回る227万円を集めることができた。

■まちの新たな交流拠点として

こうして、霜月祭への出店からちょうど1年後の2016年11月、「モリソン万年筆&カフェ」がオープン。お洒落な店には、常連客だけでなく葛城山や御所まち目当ての観光客も多く訪れる。ランチタイムは地元の名酒「風の森」の酒かすを使ったカレー、夜はグリル・ダッチ（オープン料理）や鴨鍋等を提供し、料理の味にも定評がある。

地元の人からの「趣味のサークル活動のため、集まる場所が欲しい」というニーズにも応え、人数分のケーキセットで客間を貸し出し、まちの新たな交流拠点にもなっている。

「カフェをきっかけに様々な人と知り合い、接することができた。訪れたお客さんに喜んでもらえることが何よりも幸せ」と語る谷川氏。「今後、自宅の一部を改修した民泊の営業も視野に入れている」と語り、御所まちの活性化に向けた挑戦は続く。

(太田宜志、吉村謙一)



モリソン万年筆（左上）、店舗外観（上）、シフォンケーキ（左）



モリソン万年筆&カフェ
(有限会社モリソン・ファクトリー)

〒639-2200

奈良県御所市1071番地

TEL: 0745-63-1881

URL: <http://www.morisonfactory.co.jp/>

谷川岳彦氏